

	<p>②該当箇所における改善内容の検討を行う。</p> <p>前期分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千代崎キャンパス実験実習棟空調機器更改 ・千代崎キャンパス A 講義棟空調機器更改 ・白子キャンパス北駐車場整備 ・ICT 設備サーバー・ネットワーク更新 ・千代崎キャンパス B 講義棟 CPU 室更新 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>前期分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千代崎キャンパス実験実習棟空調機器更改(9月完了) ・千代崎キャンパス A 講義棟空調機器更改(9月完了) ・白子キャンパス北駐車場整備(9月完了) ・ICT 設備サーバー・ネットワーク更新(9月完了) ・千代崎キャンパス B 講義棟 CPU 室更新(9月完了) <p>後期分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂多目的トイレの整備 ・千代崎キャンパス受変電設備更新 ・学内一部ドアのバリアフリー化 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>後期分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂多目的トイレの整備(3月完了) ・千代崎キャンパス受変電設備更新(3月完了) ・学内一部ドアのバリアフリー化(3月完了)
<p>3. 附属医療施設設立に向けた着実な取組</p>	<p>大学附属病院設立に向け、下記の取り組みを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病床認可に向けた県医療保健部との折衝 ②学内カリキュラム検討協議 ③附属医療施設認可に向けた文部科学省との協議 ④文部科学省への寄附行為変更申請手続および関連協議 ⑤各関係機関との調整協議 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平成 30 年 11 月以降、県医療保健部と粘り強く折衝を重ね、平成 30 年 11 月 30 日の県と厚労省との事前協議において、概ね特例病床認可についての方向性が示された。これを受け、平成 30 年 12 月 19 日の鈴亀地域医療調整会議意見交換会において、病床認可への賛成意見が多数出された。そして、平成 31 年 3 月 1 日の鈴亀地域医療調整会議において、全会一致で病床整備が認められた。 ②2021 年開院後の学内カリキュラムについては、学長から各部に対し実習も含めた検討を行う旨、大学協議会で指示した。 ③平成 31 年 2 月 7 日以降、2 回にわたって文科省との協議を実施した。 ④2019 年(令和元年)7 月 16 日、文科省へ附属医療機関認可の寄附行為変更申請を行った。同年 11 月 13 日 文科省から附属医療施設認可を受けた。 ⑤県医療保健部・三重県医師会・鈴鹿市医師会・亀山医師会との調整協議を実施した。

第2 - 2期の活動計画の達成状況

重点分野2：大学広報の強化と入学者受入れの改善	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:3】 戦略的広報の展開</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信</p> <p>2. アドミッション・ポリシー沿った学生確保の実現と入学に直結する広報活動の強化と入試制度の検証と改善</p>	
<p>責任者:森下 芳孝 (学生・社会貢献担当副学長) / 長村洋一 (前 学生・社会貢献担当副学長)</p> <p>分担者:小山 尚樹 (入学課長)、山口えり子 (企画広報課長)</p> <p>事務局:入学課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信	<p>① 効果的な広報戦略のPDCA実施</p> <p>「大学広報（企画広報課）と学生募集広報（入学課）、就職先広報（就職・キャリア支援課）との連携と双方の充実化を図る」</p> <p>1. 2020年3月までに、ターゲットの分析を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「アクセスオンライン」(資料請求者管理システム)と入学課で管理している「受験者情報」から、本学への志願者動向の分析を行った。 [分析結果]・Webアクセス解析 ホームページの受験生応援サイトのアクセス数を、2019/6/1～11/30と2018/6/1～11/30の期間で比較した。 本学ウェブサイトへのアクセス数は増加傾向にあり、特に入試情報では志願者数増の入試関連へのアクセス状況が顕著であった。</p> <p>2. 2020年3月までに、広告広報の費用対効果の測定をする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2017年度にWeb広告を実施し、当時の高校生が大学に入学する年度となったため、本学への接触状況を纏めた。 [県、地域別による費用対効果の相違とWeb広告での課題] ・費用対効果が高いのは東海と沖縄地区であり、低いのは関東や関西地区であった。県別に入学者1名を確保するために必要なWeb広告費を算出すると、和歌山、静岡、沖縄、岐阜の4県が低く、費用対効果が高いと分かった。今後の広告広報強化材料として検討していきたい。 ・Web広告を掲載する場合は、ターゲットの動向を調査し、どこに焦点を絞ると効果的なのかを見極め、クリック増につなげる必要がある。</p> <p>3. 2020年3月までに、広告媒体の見直しを行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 上記2の結果より、全地域に広告を出すには費用が高額になるため、学生確保を目的とする場合は、特定の学科に絞り費用対効果の高い地</p>

域に広告を行う必要性があると分かった。また、広告効果には持続性がなく一時的なものになる可能性があることも分かった。
 今後も、大学の独自性や希少性を提示していくため、SNS を利用したキャンパスライフの紹介強化により、三重県の地域性および本学独自の教育内容や方法を用いたキャンパスライフを発信することで、本学の「独自性」「希少性」をPRする。
 また、社会貢献を目指した共同研究等の強化と社会的評価を得るため、「研究」に特化したホームページを立ち上げ、共同研究等を推進していく仕組みを検討したい。

②大学ブランドカアップのため、大学の取り組み・教育や研究の成果・地域貢献活動等の内容を積極的に発信する

1. メディア戦略の構築

- ・ 随時、新聞・テレビ・ラジオなどのマスメディアを利用したプレスリリースや広告・PR 活動を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

県内報道機関へ、本学の教育・研究・社会貢献活動に関する情報発信を随時行った。

新聞広告やメディアへの掲載については、新設学科・専攻に関するタイムリーな情報の発信や積極的な広報に努めた。

- ・ プレスリリース：計 19 件

取材：49 件、告知記事掲載：17 件

※上記は、プレスリリース内容に対する取材・告知掲載件数

- ・ メディア掲載状況：計 92 件 ※上記 66 件を含む

(テレビ/ラジオ：24 件、新聞：62 件、雑誌：6 件)

- ・ 新聞広告/メディア協賛：計 16 件

(テレビ/ラジオ：7 件、新聞：6 件、雑誌：3 件)

2019/11/28 実施の「大学附属病院 開設記者発表」では、10 社からの取材を受けた。引き続き、来春の開設に向け、適切なタイミングを考慮した積極的な情報発信を行っていく。また 2019 年度は、市民公開講座やイベントなどの告知情報掲載にも力を注いだ。

(メディア掲載状況 昨年比：+32 件、告知情報掲載 昨年比：+15 件)

今後も、県内報道機関とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築やメディアの興味を促す情報提供、ニュースリリースのタイミングにも留意していく。

2. 大学ホームページの充実化

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

以下についてのコンテンツを強化し、積極的な広報活動を行った。

- ・ 新着情報発信への迅速な対応
- ・ What's new の情報更新 (随時)
- ・ コンテンツの見直しおよび拡充
 作業療法学専攻と鍼灸スポーツトレーナー学専攻、頁の追加
 (2019 年 4 月から特設サイトを閉鎖し、既存の学科と同様に頁を追加)
- ・ 新入生応援サイト ※新規制作
 入学予定者向けサイト(合格者向けサイト)を 2020 年 3 月 13 日公開
- ・ 研究振興課社会連携研究センターサイト統合に向けての企画・制作中
- ・ 東洋医学研究所 ※サイトリニューアル
 情報の見直しを行い、研究所の目的や研究内容について具体的に紹介し、活動内容を分かり易く改善した。2020 年 3 月 5 日公開
- ・ 女子学生寮・学生指定寮
 サイトリニューアル：2019 年 1 月 17 日
 Web 申込の機能追加：2019 年 9 月 3 日

	<p>3. 公式 SNS の運用強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配信内容や頻度の見直し ・ SNS の特性を活かした活用法考案 (タイムラインの活用 等) ・ 友だち登録やフォローの促進方法を検討 (チラシ配布場所工夫 等) <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>運営 3 年目の公式 SNS (LINE/Instagram) を利用し、ユーザーの意向に沿う情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>LINE 投稿件数：27 件</u> (メッセージ 20 件、タイムライン 7 件) 友だち追加数：825 名 (前年比：+294 名) ※ブロック数を含む ・ <u>Instagram 投稿件数：32 件</u> フォロワー数：295 名 (前年比：+124 名) <p>※上記は 2020. 3. 31 データ</p> <p>動画やストーリーの投稿 (新規)、シチュエーションを工夫した写を試みるなど、SNS 特性を活かした運用を行った。今後は更に投稿のを広げ、多方面からのアプローチを考えている。また、ユーザー (フォロワー) 増加に繋がるコンテンツの構築も予定している。</p> <p>4. 紙媒体・動画などを利用した情報発信</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学紹介動画のリニューアル ※新規作成 2019 年 7 月 29 日 本学ホームページで公開 7 月のオープンキャンパスでの使用、ホームページ「受験生応援サイト」での公開 ・ 「SUMS News」の発行 (継続) ・ 広報ラックの設置 (両キャンパス) ※新規設置 継続的に刊行物や掲載紙を P R した <p>③大学ポर्टレートへ継続的に参画する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学運営の現状に関する情報公開の充実 2. 積極的な更新 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>大学ポर्टレートについては、令和元年 7 月に各学部・各研究科・事務局各課において、内容確認と更新作業を実施しており、その後も担当部局等にて更新作業を実施するなど、常に最新の情報公開を行っている。</p>
<p>2. アドミッション・ポリシーに沿った学生確保の実現と入学に直結する広報活動の強化と入試制度の検証と改善</p>	<p>①高等学校との連携強化を継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校での進路ガイダンスや模擬授業への参加・実施をこれまで以上に増やして行く。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018年度(108件)、2019年度(129件)と約2割程度、依頼受付を増やしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 高校 1、2 年生を対象としたキャリア教育・探求活動への積極的サポートを行う。 <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>津田学園高校、高田高校に加え、宇治山田高校の探究活動のサポートも開始した。</p>

	<p>②医療系職能団体との連携強化を進める。 各職能団体等が主催する高校生向け行事への積極的参加を進める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 看護協会の行事参加に加え、作業療法士会主催イベントについても本学が窓口となり、PRを強化している。</p> <p>③2021年度入試に向け、入学者選抜方法の検証を継続する。</p> <p>1. 2021年度新入試制度に向けた具体的方針を提示する(2019年10月までに方針提示する) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新制度における総合型選抜(旧AO入試)、共通テスト利用方式(旧センター利用方式)において文部科学省の指針の対応した選抜方法の導入を決めた。</p> <p>2. 学部・学科ごとに各選抜区分の募集状況や入学者の学力等を把握し、2020年度入試に向け改善を進める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 看護学科の定員増、AO入試、推薦入試の出願資格の変更、センター利用方式の配点変更等の改善を行った。</p> <p>3. 高校別の志願、入学状況、イベントへの参加状況を分析し、広報活動と選抜方法へのフィードバックを進める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 志願、入学状況に応じ、静岡、長野地区への広報強化を進めた。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野3：教育内容の充実	
<p>【基本方針:1】 教育の質の向上と到達度重視の教育、面倒見の良い教育サポート体制の確立</p> <p>【基本方針:2】 国家試験対応の教育を基盤としつつ、社会の求める高いレベルの医療人教育の実現</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の質的向上を目指す新しい仕組みの確立 2. 学生に合わせた到達度重視の教育を推進 3. 面倒見の良い教育、満足度の高い教育の実現に向けた取り組み 4. 学修サポートシステムの導入と活用 5. 国家試験や資格試験に対応し全員合格を目指す教育 6. 医療人底力教育の充実発展と多職種連携教育の推進 	
<p>責任者: 鎮西康雄 (前 教務・教育改革担当副学長)</p> <p>分担者: 東英一 (前 底力教育推進センター長)、出屋敷喜宏 (FD推進委員長)、松永ひとみ (教務課長)</p> <p>事務局: 教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育の質的向上を目指す新しい仕組みの確立	<p>教育改革委員会、教務委員会、IR推進室、FD推進委員会、学科教育質保証委員会等の各組織が連携しながら、全学の教育の改善、と共に各学科の教育の質向上を図る。</p> <p>① 本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育改革委員会は、本学の教育全般にわたり、その基本的な方向性を定めると共に、長期短期の教育実施に関わる具体的な改革を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 8月、学長からの緊急連絡を発端に「トコトンできるまで教育」と称して特別教育を実現するために、体制を確立した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との調整を図りながら、実行に移すための検討を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 特別教育実施に向けて、ルールを検討し、前期科目の成績評価から実行に移した。</p> <p>② IR機能の充実とそれに基づく教育改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ IR推進室では、全学的な分析を継続し、更に各学科にIR担当教員を置き、具体的な教育改善及び指導体制について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <p>上記達成状況の具体的内容 全学的な分析を継続し、各学科にIR担当教員を置いた。具体的な分析をするためにSASシステムにアカウント登録し、学科の教育質保証委員会の検討に利用し始める仕組みを整えた。今後は、IR担当教員向けに研修会を開催するなど、計画している。</p> <p>③教育の質を担保する体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教育の質保証を検討する委員会(教育質保証委員会)を学科内に設置し、カリキュラム編成、授業担当者、授業管理の方法、シラバスの整備などについて検討し、実施する。

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学科に教育質保証委員会を設置し、教育の質を保証するために検討を開始している。今後も継続していく。</p> <p>④ F D 活動による教員意識の改革と授業改善の取り組み ◆研修会等を実施し、教員の教育技術の向上に努める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学科に教育質保証委員会を設置し、教育の質を保証するため検討を開始している。</p> <p>◆ F D 推進委員会活動をホームページ等で公開する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ホームページの学内専用コンテンツで活動報告を公表している。</p> <p>⑤ 教育実績や業務内容の情報公開 ◆教育実績や内容の新しい取り組みや特色ある取り組みを HP その他の手段で発信する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生による授業評価高得点賞の受賞者には、毎年教育研究会で発表頂き、更に本学の紀要に記事を掲載する仕組みを確立している。なお 2019 年度は、教育研究会が延期になったため、2020 年 9 月 1 日に F D ・ S D 講演会での発表を予定している。</p> <p>◆教育・教務に関わる講演会活動等について、他の大学・短大等に広報し、参加を促す。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 高等教育コンソーシアム三重 F D ・ S D 活動事業の一覧を県内の大学で共有し、相互に参加の機会を設けている。また、コンソーシアムみえでは、単位互換制度の協定を結びポスター公募 2020 年度から開始している。</p> <p>◆学生の学修状況調査や意識調査の結果等に関する集計情報を公開する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 IR 推進室で 2019 年度の調査結果を集計した資料を本学ホームページで公表している。</p>
<p>2. 学生に合わせた到達度重視の教育を推進</p>	<p>学生のレベルや理解度に合わせた、よく分かる授業、身につく授業を目指す。</p> <p>① 「とことん分かるまで教育」 ◆クリッカーの使用または小試験を頻繁に行うことで、リアルタイムで学生の記憶度や理解度を確認しながら、授業を行える環境を整える。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 5 月、SUMS-PO をバージョンアップし、クリッカーや小試験を取り入れた授業が行える環境を整えた。</p> <p>② 「何を教えたかではなく、何を身に付けたか教育」 ◆できるだけ学生参加型、アクティブラーニング型授業を取り入れ、記憶に残り身につく授業を行う仕組みを作る。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容</p>

	<p>各学科の教育質保証委員会にLMS担当委員を置き、授業内容や手法について確認する仕組みを作った。LMS研究会も2019年度は5回開催し、授業方法に関する研修を重ねた。</p> <p>◆「身に付けた教育」を評価する仕組みを作る。特に到達度を重視した評価方法の整備を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 9月、学長から、学修支援システムを最大限活用しつつ、小試験を行うなど様々な工夫と取り組みを行い本試験で多くの学生が合格ラインに達するような授業と教育指導の改善するような特別教育をするように依頼した。本試験での合格率過去3年間分のデータ分析するなど、今後も教育質保証委員会は成績評価方法の整備に努める。</p>
<p>3. 面倒見の良い教育、満足度の高い教育の実現に向けた取り組み</p>	<p>他大学には真似のできないきめ細かい個を見逃さない魅力ある教育を実現する。成績不振学生への手厚い個人指導を含む指導と、一方で一層高いレベルの学力と総合力を培う教育を行って、高い満足度が得られるバランスの取れた教育を実施する。</p> <p>①基礎学力養成教育の充実 ◆学修サポートシステムを利用した基礎学力養成のためのリメディアル教育を学科ごとにその専門性に合わせた実施方法内容を検討する。(教育質保証委員会) <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 入学時に実施したプレースメントテストの結果、リメディアル教育対象者のうち希望者対象116名に、4月～9月の期間、物理、数学、化学、生物のリメディアル授業を開講した。また、教育質保証委員会の意見を受け対象科目および内容について見直した。</p> <p>②成績不振学生の個別指導 ◆1年生早期(前期終了後)に各学科・専攻とIR推進室が協力して成績不振学生を抽出し、個別指導する。(教育質保証委員会) <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務課から、1年生前期定期試験終了後に成績不合格者リストを学科長へお渡し、教育質保証委員会で検討し、面談するなど指導内容に関する指示を、担任教員へする流れについて、教務委員会で決定し形は違うが、実施し始めた。今後は、IR委員を各学科に置いたため、更に仕組みを構築する。</p> <p>③留年学生のサポート体制の構築 ◆特別留年学生支援の新制度学生について、成果を検証する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 特別留年学生支援の制度が許可された21人中、10人が卒業し、8人が合格した。サポート体制の継続を検討する。</p> <p>④高いレベルの学力と総合力を培うための教育 ◆現在実施している事例と実践で学ぶ多職種連携教育(チーム医療教育)をより質の高い内容に進化させ、より多くの学生が履修できる体制を整備する。これにより医療人としての総合力を養う教育を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 多職種教育の集中講義をより多くの学生が履修できるように、調査した結果、日程を変更した。また、三重大学医学部生とワークショップと講義形式の2科目を合同開講し、医療人としての</p>

	<p>総合力が身に付くように意識して実施した。 ただし、履修者が30人前後のため、50人前後になるように、科目の意義など十分に説明し、今後も履修を促していく。</p> <p>⑤ 不合格科目及び留年を出さない教育に向けた取り組み ◆各学科で新しい対策（留年ゼロ作戦V2）により不合格科目を減らし、留年学生を出さない方策を検討する。（教育質保証委員会） ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 8月、学長からの緊急の指示を受け、特別教育の一つとして、無条件で進級・卒業させることではなく、到達目標に達するまで「格別の指導」を行うことを決定し、実施した。</p>
<p>4. 学修サポートシステムの導入と活用</p>	<p>新規に導入した学修支援システムを有効活用し、学生の自学自習を支援する。</p> <p>① 学修サポートシステムを利用した自学自習・演習の実現 ◆学修サポートシステムを活用した自学自習の仕組みを作り、全学的な活用を目指す。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 5月、学修サポートシステムを導入した。その機能を最大限に活用するため、学長が中心となってLMS検討部会を発足し、各先生方の事例を紹介したり、活用方法を検討する研究会を開催した。各学科の教育質保証委員会にLMS担当教員も置くこととし、学科内での検討にもつなげたが、活用は不十分であり、今後更なる活用の仕組みを構築していく必要がある</p> <p>② 学修サポートシステムによるポートフォリオの活用方法を検討 ◆学修サポートシステムによるポートフォリオの活用方法を教育質保証委員会で検討する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 サmspの機能の一つ「学生カルテ」を活用し、全学生に公表しているが、活用は不十分であり、今後更なる活用の仕組みを構築していく必要がある。</p>
<p>5. 国家試験や資格試験に対応し全員合格を目指す教育</p>	<p>本学の使命のひとつが優秀な医療人の育成であり、国家試験や資格試験に合格する教育が基本である。入学前、初年次教育、専門教育、最終学年にわたり資格試験を意識し一貫した教育カリキュラムの構築を目指す。</p> <p>① 専門基礎科目・専門科目等の授業の中での取り組み。 ◆基礎科目や専門基礎科目と専門科目との繋がりを重視し、その関係性を低学年と高学年の授業の中で相互に両方向から意識した授業を行う。（教育質保証委員会） □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科でカリキュラムマップを作成し、教育質保証委員会で科目間の関係性を分析し、授業内容や開講学年・学期などを検討している。なお各学科事情について学長へ報告する機会が延期になっている。</p> <p>◆すべての教員が国試問題に精通し、学生が授業の中で重要事項を理解し、記憶することを完結する授業を実践する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 シラバスの到達目標の中に、国家試験出題基準の項目を入力し、国家試験との関連について明記することを義務化した。よって、学生も教員もお互いに国家試験を意識した授業につながることを</p>

	<p>期待するが、実態調査が実施できていない。</p> <p>◆国試に必要な最低限の知識を記憶させる授業を行う。試験では、学生の理解度や記憶度が確認できる問題を出題する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 シラバスの到達目標の中に、国家試験出題基準の項目を記したことによって、学生が国家試験に必要な知識につながることを意識した受講が普段から期待でき、本試験での合格率アップを目指す、実態調査が実施できていない。</p> <p>②国試対策プログラムの作成と実践</p> <p>◆各学科・専攻は、4年間（または6年間）を通して夫々の学年に見合い整合性の取れた一貫した国試対策プログラムを作成する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験対策WGを開催し、各学科の国試対策プログラムを共有し学科に持ち帰り、教育質保証委員会で検討し、見直し作成している。</p> <p>◆各学科・専攻は、学年ごとに身に付けるべき重要事項を絞り込んで、わかりやすく解説する授業を実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会で重要事項を検討し、授業改善しているかどうかのチェックをしている。</p>
<p>6. 医療人底力教育の充実発展と多職種連携教育の推進</p>	<p>初年次教育としてのこれまでの実績に基づき、更に充実発展させる。また上級生向け実践的応用編である「多職種連携教育」を充実させ、社会の求める高いレベルの医療人教育を実現する。</p> <p>①医療人底力教育のあり方と更なる教育内容の見直し</p> <p>◆底力教育5年間の実績から、教育内容プログラムや運営体制にかかわる問題点や改善点について検討し、改善の具体策を策定し実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 底力教育の実績から、2020年度入学生からカリキュラムを見直した。2020年度入学生から改善された内容で実施していく。</p> <p>◆学科混合クラスの編成による底力実践の授業など、医療・福祉の総合大学としての本学ならではの医療人底力教育を発展させ、社会の求める高いレベルの医療人養成教育を実現する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度に見直し検討した結果、1年生から4年生まで一貫したカリキュラムを設定し、2020年度から全学共通科目とした。よって社会の求める高いレベルの医療人養成教育を期待する。</p> <p>②多職種連携教育(チーム医療教育)の推進</p> <p>◆他職種理解と多職種連携の必要性と意義を学ぶ教育を推進し、医療人としての総合力を養う教育として更に発展させる。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度にカリキュラムを見直した結果、科目を削除・変更し、開講学年を変更することによって、医療人としての総合力を養う教育を期待する。</p>

	<p>◆現在実施している事例と実践で学ぶ多職種連携教育(チーム医療教育)は多職種協働と現場での実際を体験する教育であり、これをより質の高い内容に進化させ、多くの学生が履修できる体制を整備する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>開講日程を調査し、変更したが、履修生を増やせなかった。 (履修者数：2018年度37名、2019年度31名)</p> <p>◆多職種連携教育は、医療人底力教育の仕上げとして、学生の将来へのモチベーションを高め、医療実践のリーダーを育てる教育を目指して改革を進める。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2019年度にカリキュラムを見直した結果、科目を削除・変更し、開講学年を変更し、2020年度から開始したことによって、医療人としての総合力を養う教育が期待できる。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第2－2期の活動計画の達成状況

重点分野4：学生支援の強化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な国試対策指導方法の具体化および実施 2. 就職率100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み 3. 学生の満足度向上に繋がる学生生活支援体制の構築 4. 大学行事、学友会活動、ボランティア活動への積極的な参加の促進と自主的に活動する学生の育成</p>	
<p>責任者: 森下芳孝 (学生・社会貢献担当副学長)、長村洋一 (前 学生・社会貢献担当副学長) 分担者: 岩崎泰正 (健康管理センター長)、山門徹 (前 健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策WG副委員長)、綾野眞理 (学生相談室長)、大塚紀寿 (就職・キャリア支援課長)、勝田能成 (学生課長)、田中宏治 (白子学生・就職課長) 事務局: 学生課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
<p>1. 国家試験、資格試験の合格率100%を目指したより効果的な国試対策指導方法の具体化および実施。</p>	<p>①国家試験WGにて各学科、専攻における国家試験対策を情報共有することによって、各学科になかった新しい気づき生まれ、新規性のある教育方法にトライすることが可能になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科が受験する国家試験の特性を理解したうえで、情報共有を図る。(5月8日WG開催) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 5月8日に学長をはじめ、各学科の国家試験担当教員を集めて開催。本年度の結果報告と課題を共有。過年度生へのケアの充実と国家試験合格率が医療系大学としての存在を問われてきているので、学習支援システムを活用しながら対策をしていく。 国家試験に向けたモチベーションの維持・向上の方策について各学科・専攻が構築してきた指導方法をWGで発表し、従来の指導と比較検討を行う。(5月8日WG開催) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 5月8日に学長をはじめ、各学科の国家試験担当教員を集めて開催。課題となっている過年度生への対策として、毎日学校に通学し履修させることにより、あきらめてしまうことの内容に対策をしていくことを共有。 現時点での各学科・専攻の国家試験対策の進捗状況を共有し、今までの模擬試験の成績等を考慮したうえで、受験者の絞り込みの基準を確認し、受験予定者数の見込みを公表する。(12月3日開催) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 12月3日に学長をはじめ、各学科の国家試験担当教員を集めて開催。 根本を理解するような教育が必要で、成績不振者に対する個別指導を低学年への指導をやっていく。

2. 就職率 100%を目指し、求人・求職側ともに納得できる就職の実現に向けた支援体制構築の取り組み。

①職業選択において、広い視野を持たせる。

・食に関して、幅広い就職先が考えられる管理栄養学専攻の学生や資格試験を必要とせず就職活動を行う学生に対して、3年時3月までに学内での業界説明会を開催したり、会社見学へ引率する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

5月に医療栄養学科生対象の企業見学実施。3月開催予定であった薬学部対象の学内合同企業説明会は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し中止とした。中止決定後、薬学部の要請により規模を縮小し、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら企業説明会を実施し20社が参加したが、学生の自宅待機が決定したため3月16日以降は中止とした。

②就職試験対策の充実。

・採用選考において、「一般常識試験」「SPI試験」「論作文試験」等の筆記試験が揮わず、合格に至らない場合が少なからずある。

具体的な対策として、3年時5月～6月にSPI対策講座、一般常識試験対策講座、11月に小論文対策講座を実施する。就職先として人気のある公務員（公立病院医療専門職含む）試験受験対策として、専門職も含めた公務員試験の仕組みを理解させる為に公務員試験対策予備校の担当者を招聘し、それぞれの試験の仕組みや難易度を具体的に説明してもらおうと共に、個別相談も実施する。

4年生に対して、実習明けの8月、就職活動最盛期の9月～10月に論作文模試を3回実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

採用選考の筆記試験対策講座は計画通り開催済み。公務員講座も個別相でも対応済み。

③薬学部1～6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施

病院、薬局、製薬メーカーなど、薬剤師を採用している企業を対象に、申込制で実施する。2018年8月から開始したが、参加する学生が少ないため、学生にも調査し参加者を増やせるような対策を検討していく。

1～4年次生は、低学年キャリア教育の一環として早い段階から業界を見ることで、薬剤師としての働き方を知り、学習へのモチベーションアップに繋げる。

5・6年次生に対しては、就職活動を行うにあたっての業界研究とする。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

2019年4月～2020年2月まで実施し、ポスター掲示に加えメール配信による告知も始めたが参加者が思うように増えなかった。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、3月から申込受付を休止した。

④薬学部5年次生を対象とした就職セミナーの充実

キャリアビジョンを明確にし、就職後のミスマッチを防いで社会で幅広く活躍できるように就職活動で必要とされる視点を養うことを目的とする。年に数回就職ガイダンスとは別枠で希望者を対象とした就職セミナーを実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

11月に「企業・病院の選び方」、2月に「小論文対策講座」「就職活動おさらい講座」を実施した。参加率は20～50%と少数ではあったが、参加した学生からは好評であった。また、2月に三重県薬剤師会様のご協力の元、三重県内10地区(10社)の薬局様にお越しいただき「薬局紹

	<p>介セミナー・懇談会」を実施した。</p> <p>⑤看護学部 1～3 年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年から社会人となっても必要とされる医療人としてのマナーを身に付けることを意識付け、実習において実践できるようにする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 8 月に実施。2 年生対象「基礎看護学実習のためのマナー講座」では、看護師採用の現状を伝え、学習意欲向上と看護師を目指す目的意識を明確にすることを目的とした内容とした。また、3 年生対象「実習と就職活動のマナー及び就活について 病院見学とインターンシップに参加しよう講座」では、実習だけではなく就職活動でも必要とされるマナーについて学び、業界研究に力を入れミスマッチのない就職先を選出することを目的とした。2020 年 2 月には、1 年生対象「看護体験前のマナー講座」を実施し、マナー講師から、実習だけではなく病院で働くことを想定した看護師としてのマナーに特化した内容で基礎から学んだ。</p> <p>⑥看護学部における就職活動サポートに対する教員との連携の強化 県内外に問わず病院の採用試験が厳しくなっている。そのことから教職員が一体となって連携を取りながら就職指導を行い、学生の就職活動のサポートを強化していく。就職活動に対する認識を統一するために、教員を対象とした勉強会を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 7 月に看護学部教員を対象とした就職ガイダンスを実施し、教員側からの学生へのサポート大勢の強化を図った。就職担当教員と白子学生・就職課で得た情報を共有し、学生への指導に繋げた。</p>
<p>3-1. 学生生活支援体制の強化- 学生の要望や状況を常に把握し 対応する体制の強化</p>	<p>①学生アンケート等を継続的に実施し、学生から汲み上げた意見・要望を、実際の学生支援へと反映させていくための取り組みを強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを継続的に実施し、分析する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生総会の開催に合わせ、全学生を対象に「大学への要望・設置してほしい設備」等に関するアンケートを実施し、集計結果を事務局会議において発表するとともに関係部局で対応するよう依頼した。 ・学友会組織との面談、聞き取りを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 6 月 27 日に学友会顧問・学生課長と、学友会執行部員 及び、各学生団体の代表による懇談会を実施し、意見の聞き取りを行った。 ・卒業生へのアンケートを継続的に実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 卒業生に対し、期限を設けず常時回答可能なWEBのシステムによりアンケートの受付を行っている。 ・学長と学生との意見交換会を定期的実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学長と、学友会執行部員や一般学生との意見交換会を、1 月 8・9 日に学長室にて実施した。

<p>3-2. 学生生活支援体制の強化-健康管理支援体制の整備（からだ・こころ）</p>	<p>①健康管理センターおよび各関係部署との連携強化 ・健康管理センターと各関係部署（白子保健室、両キャンパス学生課、各学科担当教員）との連携強化により、よりスムーズな学生対応を目指す。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナ感染症拡大防止のため、学生健康診断の実施が大幅に遅れている中、各部署と連携をとりながら、実施に向けて進めている。</p> <p>②健康管理センターと学生相談室との連携強化 ・健康管理センター、白子保健室および学生相談室との連携により、こころとからだの両面から学生の支援強化を行う。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生相談室と連携し、コロナ禍で心身にストレスを抱えている学生の早期発見のため、SUMS-POにてアンケートを実施し、問題のある学生の抽出および面談を実施中である。</p> <p>③学生相談体制の向上（前年度の分析結果をもとに行う） ・学生のニーズに対応するため、相談時間、開室日などを再検討する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 実習、授業などの空き時間と相談室の予約可能時間が合わず、来談できない学生がしばしばみられた。</p> <p>・守秘義務に配慮しつつ、必要に応じた連携を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ケースの状況に即して連携を行いながら対応した。</p> <p>・定期的にこころの健康に関する情報を発信する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 こころの健康に関する情報を「そよ風だより」として一斉メールで配信した。</p> <p>④障がい学生支援 ・障がい学生に対する支援意識を醸成するための取り組みの実施。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生相談室のパンフレットや紹介カードに、障がい学生支援に関する要素も取り入れ作成・配布を行っている。また、本学ホームページでも、障がい学生支援に関する取り組み（主に設備面）の紹介を行っている。</p>
<p>3-3. 学生生活支援体制の強化-福利厚生と基本的生活指導</p>	<p>①福利厚生施設、学内環境の充実 ・あいさつ運動、交通指導（大学周辺、通学路、駐車場、駐輪場） <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生指導委員会構成員を中心に各学科教員・事務局職員との協働により、年間を通じて実施した。</p> <p>・各種学生アンケートの結果を把握・集約し、検討していく体制の整備を進める。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学友会執行部と学生課の協働によりアンケートの実施・結果の集計を行い、内容に応じて然るべき会議への上申、あるいは関係各課との協</p>

	<p>議を学生課が行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生食堂の更なる充実に向けての取組みを行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生食堂に対する学生の意見を集約し、食堂委託業者に伝え改善等の要請を随時行っている。 食堂運営委託業者との意見交換会を実施する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生課と食堂委託業者との連携は普段から十分に取れており、食堂利用者数やメニュー等について、必要に応じて意見交換等の機会を設けている。 <p>②学生への食生活調査の実施及び栄養指導への展開を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生への食事調査を継続するとともに、その食事調査や健康診断の結果をもとに、学生の食生活改善につながる栄養指導への展開を進める。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナにより実行が困難な部分があり今後調整予定
<p>4. 課外・社会活動の自主的参加への支援</p>	<p>①学友会、クラブ・サークルの活動を支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学友会組織の継続的支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学友会が年度当初に計画した学生交流事業を2月までは予定どおり開催することができ、その都度 企画から実施運営・後処理までのすべての工程に関わった。 また、3月以降のイレギュラー対応についても、学友会と担当職員間で十分話し合った上で対応策を練るなどの支援を行った。 クラブ・サークル活動の継続的支援を行う。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 クラブ・サークル運営委員会（委員会役員 及び、各クラブ・サークルの代表・学生課）を年5回開催し、都度発生する問題点や課題に対する協議を行う中で、より良いクラブ・サークルの運営支援・協力を行った。 <p>②社会貢献活動への支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア情報の周知を徹底し、学生が円滑にボランティア活動に取り組めるよう支援する。 <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ボランティアセンターだけでなく、各学科教員からも情報提供していただくことで周知の徹底が出来た。 学科の特色を活かしたボランティア活動の企画をサポートし、実施に繋げる。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 桜の森白子ホームにて、教員指導のもと学科の特色を活かした活動を実施することが出来た。地域におけるボランティア活動においても、教員引率のもと学科の特色を活かして活動することで大学のPRが出来た。 <p>③サムスポイント制度の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生への積極的なサムスポイント取得への支援を行う。

	<p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学生指導委員会でサムスポイントの付与項目の見直し等を行い、学生にとって取り組みやすい環境作りを行った。</p> <p>・ポスターの掲示等によりサムスポイント制度の周知をはかる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ポスター掲示の他、ガイダンス時の資料配布・口頭による広報等、学生への周知機会を設けた。</p> <p>・学位授与式・入学式・ガイダンスの機会等を利用し、サムスポイント高得点取得学生の表彰を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学位授与式・ガイダンスの場において高得点取得者に対し表彰を行った。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第2－2期の活動計画の達成状況

重点分野5：教職員の人材確保と育成	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【中期計画】2018-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学教員として相応しい人材の確保と育成 2. 自助努力を促しつつFD等による教育能力の向上に努め、次世代を担う教員が育つ環境の整備 3. 大学事務職員としての業務遂行に必要な知識・技能の修得、資質と能力の向上を図る 	
<p>責任者:片山直之(教務・教育改革担当副学長)／鎮西康雄(前 教務・教育改革担当副学長)</p> <p>分担者:出屋敷喜宏(FD推進委員長)、水谷史生(法人事務局長)、村田尚久(大学事務局長)、 矢田智樹(人事・厚生課長)、松永ひとみ(教務課長)</p> <p>事務局:人事・厚生課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 大学教員として大学の目標に貢献できる人材を確保する審査方針・基準の確立	<p>①教員の採用・昇任に関する審査方針・基準を確立する</p> <p>◆学長・副学長会議は、本学の教育理念や教育目標等に則して、本学の教員に求められる基本的要件を明確にし、2019年度末までに、学内に公表提示する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学の教員評価と教育目標の設定および自己評価の指針を学長が示し、全教員に実行させた。</p> <p>◆本学教員に求められる基本的要件に鑑み、また本学が置かれた現在の大学実情等に適合した、教員の採用、昇任審査における新たな審査方針・基準の原案を2019年度末までに審議し、全学に提示する □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 喫緊の課題として、現在の基準を変更する必要に至らなかった。</p> <p>◆教員の採用・昇任の新しい審査方針・基準を学内各層の合意を得て2019年度末までにガイドラインを策定する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 喫緊の課題として、現在の基準を変更する必要に至らなかった。</p> <p>②教員役職者への研修会を2019年度末までに一回企画する。(SD) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための危機管理体制整備と実行のための研修会を複数回実施した。</p>
2. 教員の教育・研究能力の向上推進	<p>①教員の教育力(指導力)向上に向けた方策</p> <p>◆FD推進委員会が教員の資質向上のための研修会を継続的に実施し、向上できる環境を整備し、次世代を担う教員を育てる ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2019年度第1回FD・SD講演会を以下のように開催し、教育の質向上に向け全教員に参加を促した。</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>日時：9月2日(月)13：30～17：00 第1部：京都光華女子大学 阿部一晴教授「ICTが支える学びのかたち」 第2部：豊田長康学長「トコトンできるまで教育について」 第3部：三浦英和准教授「SUMS-POの学修支援機能の活用」 179名が参加し、参加できなかった方には、録画したDVDを閲覧頂き、レポート提出が確認され、出席率を100%にした。</p> <p>◆FDマニュアル第1号は、2019年8月末には、全教員へ配布する。 2020年1月までに第2号FDマニュアルを配布する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 FDマニュアル第1号は完成し、全教員へ配布した。第2号については、2019年度学生による授業評価高得点賞の先生方の執筆および遠隔授業を取り入れる内容で刊行の準備をしている。</p>
<p>3. 大学事務職員としての業務遂行に必要な知識・技能の修得、資質と能力の向上を図る</p>	<p>①教職員に対し、教育研究活動や大学行政に関する様々な課題に対応するための学内での研修会を実施する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、コンソーシアムみえによるFD・SD研修会は中止、本学教職員全体研修会は延期となったが、その他研修会は予定通り行った。</p> <p>②研修会等の情報収集および検索の強化を図り、学外で開催される研修会等への参加を促進する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学外で開催される研修会等について情報を収集し、周知を図った。まだ、件数は少ないため、さらに情報収集に努める。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野6：研究機能の充実	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:5】 外部資金の獲得と独創的な研究</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学独自に指導的立場の教員を育てていくための大学院の充実と研究者の育成を促進する組織体制の構築 2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備充実と外部資金の獲得 	
<p>責任者:鈴木宏治(大学院・研究担当副学長)／川西正祐(前 大学院・研究担当副学長)</p> <p>分担者:葛原茂樹(医療科学研究科長)、長谷川誠仁(大学院課長)、真弓昭(研究振興課長)</p> <p>磯部篤男(前 研究振興課長)</p> <p>事務局:大学院課、研究振興課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 本学独自に指導的立場の教員を育てていくための大学院の充実と研究者の育成を促進する組織体制の構築	<p>【大学院課】</p> <p>①本学在学生・卒業生の大学院入学を促進するため、学内広報の強化、及び同窓会と連携した学部卒業生への情報提供強化等を行う。</p> <p>◆大学院説明会・相談会を実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学部生(看護学部)への大学院説明会の開催。同窓会誌に大学院入試情報を掲載。</p> <p>◆大学院生の研究活動などを学内広報誌やホームページを強化し、大学院進学を促進する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学内誌に大学院入試情報を掲載。ホームページの更新。</p> <p>②研究環境の整備を推進する。</p> <p>◆研究環境に関する教員及び学生満足度調査を実施する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 学生・教員へ研究進捗状況を主とした調査を行っている。</p> <p>③質の高い研究が出来るようになり、世界的にインパクトのある研究を増やす</p> <p>◆国際学会、国際誌へ発表するための支援の一環としてFD講演会を開催する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 薬学科や医療科学研究科では、学術講演会を月1回程度行われているが、国際学会、国際誌へ発表するための支援の一環としてFD講演会としては開催されていない。</p> <p>【研究振興課】</p> <p>④大学全体として、あるいは学科毎にその能力を伸ばすような集団的・横断的指導体制を構築する</p> <p>◆2020年3月までに、研究力の育成方法を検討し、研究者に対する集団的・横断的指導と研究環境の充実を図る体制を構築する。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2018 年度に採択された科研費の挑戦的研究(代表:豊田学長)がこの体制で行っているものである。今後は研究力の育成方法や集团的・横断的指導と研究環境の充実のため、シンポジウムの開催を検討していく。</p> <p>⑤教員の研究力向上を目指す</p> <p>◆2020 年 3 月までに、若手教員の研究を支援する方策について、副学長(大学院・研究担当)の下に研究実施委員会を 3 回開催し、検討された方策を 2020 年 4 月から実施する。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2019 年度は研究実施委員会を3回開催し、若手教員の研究力が向上するための方策を検討した。若手教員にとっては、やはり研究として世界的に認知度の高い科研費に積極的に応募して頂くことであり、全体及び学科委員から折に触れて推奨をし、また科研費説明会等で支援していく。</p>
<p>2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備充実と外部資金の獲得</p>	<p>【大学院課】</p> <p>①各学科・各研究科・各分野に、独創的な研究対象を設け、共同研究を進める体制を構築</p> <p>◆大学院の研究指導教員を増やし、研究指導力の強化を目指す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>医療科学研究科と薬学研究科の両研究科が大学院の指導員を増やし、研究指導強化を目指すことを議論されている。全学の共同研究を進めた結果 2018 年度に採択された科研費の挑戦的研究が採用され、その研究を行いつつ各研究者が研究指導力を高めている。</p> <p>②学内に研究指導者が求められない場合のために、他大学の研究に参画する準備を整え、研究に行き詰った場合には、それを打開するようなアドバイスなどをする体制の整備。</p> <p>◆三重大学との連携協定に加え、関連大学や院生所属機関の研究指導者を本学の臨床教授として、委嘱する仕組みを整備する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>薬学研究科では社会人大学院生の所属する病院(三重県立こころの医療センターと総合心療センターひなが)の研究指導者が本学の臨床教授に委嘱され共同研究を行い独創的な研究を目指している。</p> <p>【研究振興課】</p> <p>③東洋医学的視点及び薬食同源の観点から本学の独創的研究を進めるための研究環境の充実を図る。</p> <p>◆2020 年 3 月までに、研究ブランド化委員会で、超高齢社会における疾病予防のための薬食同源・東洋医学的研究拠点を構築し、2020 年 4 月から学内外へ公表する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>研究ブランド化委員会に代わり、本テーマは研究実施委員会で検討した。豊田学長が代表となっている科研費の挑戦的研究では学科を横断した研究チーム体制で遂行しているが、そのような体制を他でも作っていく。</p> <p>④科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるための具体的方策を実施</p> <p>◆2019 年度の科学研究費採択額順位 100 位以内を目指す。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2019 年度は 103 位であり、2018 年度の 101 位からは下がったもの</p>

	<p>のほぼ変わることなく同位置に落ち着いた。申請率も昨年よりは上がっているので引き続き積極的な応募を勧奨していく。</p> <p>◆より良い科学研究費申請書作成のための支援講習会を開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎年度科研費採択件数が複数回ある経験豊かな教員を講師として、申請に向けてのアドバイス、実例を踏まえた説明会を開催している。</p> <p>◆科学研究費などの外部資金の申請率及び採択率をあげるために、教員評価システム項目の研究面について、より充実させる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教員評価システムに関する会議では、結果を出している等研究への取り組みが積極的と判定された教員をプラス評価とするよう検討している。</p> <p>⑤研究倫理の確立と厳正な運用の実施 ◆学内規程の整備と研究倫理・研究不正防止に関する講習会ならびにeラーニングによる研究倫理教育の実施。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎年度科研費申請の時期に、研究倫理・研究不正防止に関する講習会を開催している。またeラーニング研究倫理教育への受講も徹底している。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第2 - 2期の活動計画の達成状況

重点分野7：地域・産学官連携推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <p>1. 社会に対する情報発信のための地域・産学官連携研究活動の推進 2. 学内研究の活性化に向けた地域・産学官連携研究活動の強化</p>	
<p>責任者:鈴木宏治(大学院・研究担当/社会連携研究センター長) 分担者:真弓 昭(研究振興課長)、磯部篤男(前 研究振興課長) 事務局:研究振興課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 社会に対する情報発信のための地域・産学官連携研究活動の推進	<p>①県・市町・企業・地域団体等との間で行う研究に関する産学官連携研究活動の推進</p> <p>◆地域・産学官連携に基づく企業等との共同研究の積極的推進 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 年間に県内企業との共同研究を2～3件行っている。</p> <p>◆SUZUKA 産学官交流会活動への参加による広報活動等の推進 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUZUKA 産学官交流会では、本学研究担当副学長が理事、研究振興課課長が事務局役員としてその運営に携わった。</p> <p>◆みえメディカルバレー構想活動への参加による広報活動等の推進 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 みえメディカルバレー企画推進会議会長として本学研究担当副学長が参加し広報活動を推進した。</p> <p>◆みえライフイノベーションプロジェクト鈴鹿関連活動への参加 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 みえライフイノベーションプロジェクト鈴鹿関連会議に本学副学長と研究振興課課長が参加し活動を推進した。</p> <p>◆三重県産業支援センター活動への参加 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 三重県産業支援センター評議員として本学副学長が会議に参加し、また当該支援センター主催の医療機器分野ステップアップセミナーに参加した。</p> <p>◆イノベーションジャパン(於:東京ビッグサイト)への参加による研究成果等の積極的広報の推進 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 イノベーション・ジャパン2019には2名の教員(臨床工学科、薬学科)が出展した。</p>

	<p>◆鈴鹿病態薬学研究会の継続 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴鹿病態薬学研究会を原則毎年2回開催している。</p>
<p>2. 学内研究の活性化に向けた地域・産学官連携研究活動の強化</p>	<p>①地域・産学官連携研究活動の強化に向けた方策の具体化 ◆社会連携研究センター運営委員会の年間3回以上の開催 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 社会連携研究センター運営委員会を3回開催した。</p> <p>◆社会連携研究センターHPに研究シーズ集、地域・産学官連携活動成果の掲載 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 研究シーズ、イノベーション・ジャパン参加等活動をHPに掲載している。</p> <p>◆SUMS-NITS 医工連携研究会を年間2回以上の開催 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 SUMS-NITS 医工連携研究会を2回開催した。</p> <p>◆三重大学、鈴鹿高専等との連携による共同研究や研究会への積極的な推進 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 本学教員が三重大学並びに鈴鹿高専の教員と共同研究を推進している。</p> <p>②社会連携研究活動の推進に向けた方策の検討 ◆鈴鹿医療科学大学・研究シーズ集2020の刊行 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 研究シーズ集2020を刊行した。</p> <p>◆鈴鹿医療科学大学・研究紀要2019の刊行 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 紀要第26号(2019)を刊行した。</p> <p>◆研究シーズ集・研究紀要の地域・産学官組織への積極的配布 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 研究シーズ集は県内の金融機関、商工会議所等へ、紀要は県内教育機関の図書館へ配布している。</p> <p>◆入試広報活動における鈴鹿医療科学大学・研究紀要の活用 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 薬学部では県内外の高校訪問時に紀要を持参し、進学担当教員に手渡し紹介している。</p>

第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野8：国際交流の推進	
<p>【基本方針:2】 さらなる医療・福祉の総合大学化と魅力づくり</p> <p>【中期計画】 2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備と支援体制づくり 2. 各学科単位での学生の海外体験の機会の拡充、教員の国際対応力と国際的な発信力の強化 3. 欧米とアジア地域における保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進 	
<p>責任者:葛原茂樹(医療科学研究科長) 分担者:真弓 昭(研究振興課長)、磯部篤男(前 研究振興課長) 事務局:研究振興課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. グローバル化に向けた国際交流のための学内体制の整備と支援体制づくり	<p>①学内国際交流拠点として国際交流室(仮称)設置を大学に提案する。 ◆2020年3月までに国際交流室設置の目途をつける。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国際交流室設置は、法人と理事会レベルの事業であるので、委員会活動では限界があり、現時点では実現していない。今後も委員会としてはその実現に取り組んでいく。なお、大学の方針として、今後は大学院や学部留学生を受け入れる方向が示されているので、近い将来に大学組織として国際交流部門設置は必要になると思われる。</p> <p>②学生・教職員の国際交流支援体制づくり。渡航手続きマニュアル作り、安全情報、予防接種などの情報提供、実施医療施設調査などを整備する。 ◆2020年3月までに、支援体制の中で実現可能なものについて、マニュアル化する(渡航手続き、診断書作成や予防接種実施施設など)。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 HPにアップする準備を進めている。</p> <p>③学内の各レベル(大学、学部、学科、個人)で実施されている国際協力活動(学術、教育、その他)の現状調査の実施と、継続的あるいは萌芽的に進行中のものがあれば、将来の発展性を含め調査を実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 毎回、委員会で各学科の取り組みと今後の計画について報告を実施し、経験や情報を共有し、支援し合っている。</p> <p>④国際交流活動の参考にするために、他大学の組織や活動を調査する。 ◆学生の海外研修実施校の中で大学間協定締結などによる定期的交流や単位互換実施の状況を調査する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国際交流委員会が設置された時点で実施した。それ以降に、学内の状況に大きな変化はないので実施していないが、国際交流室設置などに具体的な進展があった場合には、必要に応じて再度実施し、迅速に対応する。</p>

鈴鹿医療科学大学

<p>2. 各学科単位での学生の海外体験の機会の拡充、教員の国際対応力と国際的な発信力の強化</p>	<p>①国際対応力実践の場として、学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス、医用情報工、看護の3学科の活動を継続的なものにする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 看護学科ではコロナ禍で中止とした。医用情報工学科は計画したが学生の参加希望者が少なかったので実施しなかった。来年度実施と事業継続を目指している。鍼灸サイエンス学科は、本年度は中国と台湾への海外研究実施年ではないために、実施していない。 なお、学生や引率教員の旅費などに対する大学からの支援の要望が出たがこれまで実現していなかった。これに関連して、今年度は、看護学科の米国研修中止によって発生したキャンセル料などに関して、管財課と調整した結果、海外研修用に予定していた学科予算などの転用によって補填することが認められ、学生と教員の負担は大幅に軽減できた。 教員については、国際交流の視点から、国際学会参加や発表、海外研究者との交流、海外研究者の本学への招聘講演や学部での特別講義など、意識的な取り組みが増えてきたのは、大きな前進である。この一部はHPにもアップされている。</p> <p>②未実施の学科においても、教員と学生の一定数が海外体験することを目標とする。 ◆2020年3月までに鍼灸サイエンス学科、看護学科以外の学科において、教員と学生の一定数が海外体験をする。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科全体としての新たな計画は出されていないが、国際学会への教員に随行しての参加など、可能な範囲で実施されるようになった。引き続き、学科単位の取り組みをするように啓発活動を進める。</p> <p>◆今年度は見送り予定の医用情報工学科は、韓国の大学との交流が途切れないような方策を検討し、来年度の学生海外体験の実現を図る。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 担当教員はその方向で準備している。</p>
<p>3. 欧米とアジア地域における保健・医療・福祉領域の学術・教育の交流拠点づくりの促進</p>	<p>①三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)と連携し国際交流を推進する。 ◆三重県国際医療技術連携体制(M-MUSCLE)の定期会議に参加して、情報収集をするとともに、募集があれば、英国との看護師・看護学生研修プログラムに本学からの海外研修参加者を確保する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 第1回に参加して以降、新しい応募者はいないので、引き続き学科内の若手教員を対象に、学科として支援し参加できる体制を構築するように要請している。</p> <p>②本学活動として、鍼灸サイエンス学科(天津中医薬大学など)、医用情報工学科(韓国ソウル市漢陽大学校)、看護学科(米国ロサンゼルス Biola 大学)の交流を継続させ、協定に基づく大学レベルの交流にレベルアップしていく。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科レベル事業として定着しつつある事業を、今後は大学レベルの事業として認知され、協定締結や財政的支援を得られる事業に発展させていくことが必要である。</p> <p>③薬学研究科ではコンケン大学(タイ)との協定に基づく学術交流を推進する。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 現在実行可能なレベルで実施されている。</p>

鈴鹿医療科学大学
第2－2期の活動計画の達成状況

重点分野9：大学活性化のための継続可能な組織体制改革	
<p>【基本方針:4】 次世代を担う教職員の養成とモチベーションの向上</p> <p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学長のリーダーシップのもとで、組織目標達成のためのPDCAサイクルの質の向上 2. 現場の職員の知恵を生かした、組織・業務プロセスの見直しによる効率化と質の向上 3. 教職員評価制度の適切な運用による教職員のモチベーション向上 4. 大学の危機全般に対して、教職員が的確に判断し円滑に対応できる危機管理体制の整備 	
<p>責任者: 豊田長康 (学長)</p> <p>分担者: 水谷史生 (法人事務局長)、村田尚久 (大学事務局長)、勝田能成 (学生課長)</p> <p>事務局: 学生課、管財課、庶務課、人事・厚生課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画の項目	活動計画内容
1.学長のリーダーシップのもとで、組織目標達成のためのPDCAサイクルの質の向上	<p>◎各組織の目標達成に向けて、各分掌の現状における課題と目標を明確化にし、全教職員が効果的なPDCAサイクルを機能させる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>定期的実施している学長・副学長会議にて学長から指針を具体的に示すことで、各担当領域への活動をコントロールし、機能させている。</p> <p>◎IR推進室が教学データを収集して分析し、各学科にフィードバックする活動を引き続き行い、更に可視化をすすめる。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>IR推進室の会議にて室長である学長が様々な視点から分析を実行し、その中から課題を可視化し、改善検討項目として発信している。</p>
2.現場の職員の知恵を生かした、組織・業務プロセスの見直しによる効率化と質の向上	<p>現行の事務組織機能について検証し、更なる機能の向上を図る。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>事務組織については、現状の事務組織構成で機能している。</p>
3.教職員評価制度の適切な運用による教職員のモチベーション向上	<p>教員評価取扱い基準及び職員人事考課取扱い基準に基づき評価を実施。</p> <p>実施した結果に基づき、評価基準の見直しや処遇に反映するに相応しくかつ整合性のとれた、より良いシステムを構築するための検証を行う。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>評価方法をより良くするために改善したシステムを活用し、教員評価をすべての教員に対して実行した。</p>
4.大学の危機全般に対して、教職員が的確に判断し円滑に対応できる危機管理体制の整備	<p>防災・危機管理委員会の活動を開始し、危機管理に関する諸規程・ガイドラインの確認及び必要に応じた見直しを関係部署に指示し、諸規程の見直しガイドラインの策定を行う。</p> <p>5チームを編成(自然災害管理・事業継続管理(BCP)／海外危機管理／情報危機管理／研究危機管理／学生危機管理)し連携方策を検討す</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>ることを目的として設置した。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>本年度より委員会の立上げに伴い5つのチーム編成を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、既存の5チームに加えて、感染症危機管理チームも編成した。</p> <p>6・1月の2回委員会を開催し、危機管理に関する諸規程の見直しとガイドラインの策定を行った。今後は危機管理規程との整合性を図って想定される危機管理に備え対策マニュアルの作成に取りかかる。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

鈴鹿医療科学大学
第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 10：財政基盤の充実	
<p>【基本方針:6】 公益性と収益性の両立</p> <p>【中期計画】2018年度-2020年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財源確保策の実践による安定的な財政基盤の構築 2. 補助金制度と大学のシーズを活用した外部資金の獲得推進 3. 効果的な経費削減の推進 	
<p>責任者:水谷史生(法人事務局長) 分担者:岩田善光(経理課長)、宮崎和裕(管財課長)、真弓昭(研究振興課長)、磯部篤男(前研究振興課長)、経費削減推進委員会 事務局:経理課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 財源確保策の実践による安定的な財政基盤の構築	<p>収入拡大の検討・実施</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2019年4月に、リハビリテーション学科及び鍼灸サイエンス学科鍼灸・スポーツトレーナー学専攻開設の影響もあり、学生生徒等納付金収入が増加した。また、経常費補助金の増加や教育研究設備・装置等の補助金制度の活用により補助金収入も増加し、収入を拡大することができた。</p>
2. 補助金制度と大学のシーズを活用した外部資金の獲得推進	<p>① 教員等の研究活動に資するための財政基盤として、大学の研究シーズを基にした受託・共同研究費や寄付金を獲得する。</p> <p>◆研究シーズ集を銀行、商工会議所、三重県産業支援センター等に配布する</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>研究シーズ集2019は2019年1月に刊行、県内の銀行、商工会議所、三重県産業支援センターに配布した。</p> <p>◆受託・共同研究費や寄付金を獲得し、研究活動を活発化させる</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>2019年度は受託研究が7件(7,230千円)、共同研究が9件(9,100千円)、寄付金は12件(18,675千円)で昨年同様に一定数獲得している。</p> <p>② 教育研究設備・装置等に関する計画の実行上、各種補助金制度に合致する案件においては積極的な活用を推進する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>補助金申請結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究設備 1件応募 確定 ・バリアフリー化工事 2件応募 2件確定 ・ICT活用推進事業 1件応募 応募内容が該当せず
3. 効果的な経費削減の推進	<p>経費削減意識に関する啓発活動</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容</p> <p>◆経費削減推進委員会で、年5回の「サムエコ通信」を教職員に発</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>信し、また、教職員全体研修では、外部から講師を招いて講演を実施してエコ活動と経費削減の啓発活動を行った。</p> <p>◆物品購入等申請書、伺書等の稟議書に関する費用対効果の薄い案件や、無駄使いになりそうな案件についての指導については、2019年度も継続して行った。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

鈴鹿医療科学大学
第2-2期の活動計画の達成状況

重点分野 11：4つのポリシーの実質化	
<p>【基本方針:1】 満足度の高い教育の推進 【中期計画】2018年度-2020年度 1. 4つのポリシーの策定と運用についてガイドラインに則したPDCAサイクルを実行</p>	
<p>責任者：豊田長康 分担者：教育改革委員会、教育質保証委員会 事務局：教務課</p>	
2019年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 4つのポリシーの策定と運用についてガイドラインに則したPDCAサイクルを実行	<p>①4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行 ◆ガイダンス等で、教育目標を踏まえたディプロマポリシーを学生に周知する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 カリキュラムマップをガイダンスで配布し、教育目標やディプロマポリシーについて周知している。</p> <p>◆ガイダンス等で、カリキュラムポリシーを学生に周知し、ディプロマポリシーとの一貫性を確認し、教育課程が体系的に編成されていることを学生に説明する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ガイダンスの中で、学生に説明している。</p> <p>◆教育質保証委員会でアドミッション・ポリシーと教育課程との整合性を点検し、PDCAサイクルを回す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会の役割の一つになっているが、教育改革委員会の報告会が延期になっている。</p> <p>②ディプロマポリシーの達成度をチェックする仕組みを構築する。 ◆ディプロマポリシーの達成度をチェックするために、学生の学修成果に関するアンケートを卒業前の4年生に対して実施し、IR推進室で集計し、確認する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 IR推進室で集計し、グラフ化したものを本学のホームページに公表している。</p> <p>◆集計結果を各学科へ報告し、教育質保証委員会で改善に活用する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 教務委員会で集計結果を報告し、各学科の教育質保証委員会の中でカリキュラム全体および科目の内容・開講時期など検討し、改善案を検討している。</p> <p>③アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会で確認し、学科内において必要な修正を行う。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

鈴鹿医療科学大学

	<p>上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会で確認する仕組みは構築したが、教育改革委員会へ確認し対応した結果に関する報告会が延期になった。</p> <p>④教育質保証委員会で検討し、実施した内容を自己評価委員会で報告し、確認する <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p>上記達成状況の具体的内容 教育質保証委員会で検討し、実施した内容を自己評価委員会で報告する機会が延期になった。</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------